【令和8・9年度　研究主題】

確かな個別最適・協働な学びにつながる先行学習

【研究の核：個別最適・協働を促す先行学習】

【習得（知識・技能）】　→　【個別最適な学びの土台（全員の安心感）】

・教師の明確な補説と教科書による確実な指導で、低学力層を含む全員に

・「わかる」うれしさを感得させ、主体性につながる個別最適な学びの素地とする。

【活用（思考・判断・表現）】　→　【共同な学びの場・自己調整】

・教科書の効果的な活用を通し、自己調整させる。

・ペアやグループでの「協働的な学びの場面」を意図的に創出する。

【2点評価】　→　【自己効力感の育成】

・単元前後の評価で「伸び」を可視化。自己効力感と学習意欲を高める。

【学校の現状と課題】

①児童の基礎的学力の課題

→国、都、区の調査等で平均値を下回る状況

②授業実践力の向上

→半数以上を占める若手教員の指導力安定

③昨年度の成果と課題の克服

・先行学習の理解を深める

・授業スキルの視点のブレ

【目指す児童像】

・基礎的、基本的な知識を確実に身に付け、
安心して学ぶ児童
→低学力の児童も含め全員が「わかる」という
安心感を基盤に、自分のペースで学びを進める。

・自らの理解度の伸びを実感し、自信につなげ
学びを深める児童
→「2点評価」を行うことにより、自身の成長を
実感し、自己効力感をもって活用段階の活動に
挑戦する。

・習得した知識を基に、互いの考えを伝え合い、
友達と協力して課題を解決する児童
→活用問題や生み出された余剰時数で友達と
協働して学習する。

【今年度の手立て】

手立て①
研究教科の絞り込み

・教科を「理科」「算数科」に限定し、先行学習の効

手立て②
4つの研究視点による授業改善の推進
1.「共書き」
：ノート指導と板書の構造化による思考の可視化
2「授業スキル」
：全教員での共通理解による指導力の平準化．

手立て③
授業時数の有効活用による
「探究活動」の創出

・効率的な指導による時数短縮